

プログラム科目 血液内科

診療部長

花本 仁

総合内科専門医、日本血液学会血液専門医/指導医、輸血学会認定医、造血細胞移植認定医

指導医

- 花本 仁 准教授
- 藤田 茉莉子 診療講師
- 藤原 亮介 助教 A
- 藤本 昂 助教 B

診療実績

当科では、鉄欠乏性貧血から血液悪性疾患まで幅の広い診療を行っています。血液悪性腫瘍は主に白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患などを担当しています。基本的な治療は、成人白血病治療共同研究機構(JALSG)に参加し、臨床試験も含めて標準的な化学療法を行っています。造血幹細胞移植などの適応があれば、血縁、バンク、臍帯血移植を当院で施行しています。

血液疾患の治療成績は、新規薬剤の登場により、著しく改善しております。今後も続々と新規薬剤が開発されます。当科では、新規薬剤をできるだけ早く導入し、適正に使用し治療成績を向上させ患者さんに貢献していきたいと考えています。また、奈良県では造血器悪性腫瘍の治療を担当できる病院が少ないため血液内科医の育成にも力を注いでいきたいと考えています。取り組みとして、月に1回の検査技師による骨髄像の勉強会や、奈良県内の研究会をはじめ、日本血液学会、造血幹細胞移植学会などへの参加も積極的に参加してもらっております。近畿大学病院とも連携をしており、人事交流・研究会への企画、遺伝子検査の測定など親密な関係である。病棟では、常時20-30人以上の血液患者が入院しており、各主治医が5-10人程度担当し協力し合って患者診療に従事しております。研修医は、基本決められた上級医が主に指導する形をとっているが、他の上級医の患者も担当することで幅の広い患者を担当し、広い知識を勉強してもらいます。地域医療に根付いた診療を目指して皆さんと一緒に努力していきたいと思っております。

新規患者数	2014	2015	2016	合計
AML	8	6	6	20
ALL	2	1	5	8
CML	8	2	2	12

PV	9	1	6	16
MF	0	4	0	4
ET	5	4	13	22
MDS	26	20	27	73
HD	4	2	3	9
FL	14	10	19	43
MALT	0	3	10	13
DLBCL	17	17	29	63
MCL	1	1	0	2
BL	0	2	1	3
T細胞性リンパ腫	2	1	4	7
ATLL	2	2	3	7
CLL	1	0	1	2
MM	10	6	15	31
アミロイドーシス	1	0	1	2
ITP	14	9	8	31
再生不良性貧血	4	7	3	14
自己免疫性溶血性貧血	2	1	0	3
キャッスルマン病	1	1	1	3

認定施設

- 日本血液学会認定施設
- 骨髄バンクおよび臍帯血バンク認定施設
- クリーンルーム 8 床、血液成分分離装置

入局後の勤務予定

- 病棟中心に患者を担当するが、時期を見て外来診療も担当してもらう予定である
- 入院の受け持ちは患者の状態にもよるが、なるべく多くの症例を経験するほうが良いため、5～10 名を予定している。但し、1 人 1 人奥深く観察および治療できる程度を考えている。
- 当直回数は月 1-2 回程度。
- 積極的に学会に参加、発表をしてもらうよう考えています
- 総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、輸血学会認定医、造血細胞移植認定医の資格は取得していただく予定。

大学院生の臨床業務

大学院への進学を希望される先生は、近畿大学医学部血液内科(松村 到教授)の研究室へ推薦し進学も可能です。H31 年度までに 3 人の先生が近畿大学奈良病院血液内科から進学しています。私の考えでは、できる限り大学院への進学を希望していただきたいと思います。

外勤について

- 大学の規定された範囲内で行ってもらう。
- 原則的には週 1 日、できれば近傍の病院を考えている。

当科における業績

研究テーマ

臨床的にはエビデンスに基づいた治療が必要である。それを実証するため、JALSGおよび関連施設で行うプロトコルに協力している。また、奈良県造血細胞移植研究会、奈良悪性リンパ腫研究会、奈良腫瘍研究会、南近畿血液病フォーラム等で多施設共同のプロトコルを作成し、臨床研究を行っている。

Efficacy and safety of lenalidomide prednisolone combination treatment for Japanese elderly multiple myeloma patients

Choroidal metastasis from granulocyte colony-stimulating factor-producing esophageal squamous cell carcinoma: a case report

Successful Third Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Blast Crisis of Chronic Myeloid Leukemia After Two Times of Graft Failure
 Elevated plasma levels of procoagulant microparticles are a novel risk factor for thrombosis in patients with myeloproliferative neoplasms.
 Once-weekly Bortezomib in Combination with Reduced-dose Dexamethasone and Continuous Low-dose Oral Cyclophosphamide for Elderly Patients with Multiple Myeloma
 Successful Treatment of Autoimmune Hemolytic Anemia Concurrent With Gastric Cancer by Rituximab: A Case Report of Evans Syndrome
 Successful Treatment with intravenous GL for sepsis caused by MDRP in patient with AML
 Trib1 and Trib2 inhibit granulocytic differentiation by suppressing Akt pathway
 successful treatment of an elder frail patient with acquired idiopathic thrombotic thrombocytopenic purpura under close monitoring of ADAMT13 activity and anti-ADAMT13 antibody titers
 Successful treatment of an elderly frail patient with acquired idiopathic thrombotic purpura under close monitoring of ADAMT13 activity and anti-ADAMT13 antibody titers
 CML 治療における TKI 休薬の可能性とガイドラインの位置づけ
 造血幹細胞移植時の栄養管理
 造血幹細胞移植時の栄養管理とは
 血栓性微小血管症 TMA 診断・治療実践マニュアル
 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド 2017
 骨髄腫関連疾患における二次癌の検討—関西骨髄腫フォーラムデータベースを用いた解析—
 先天性 TTP (血栓性血小板減少性紫斑病) の臨床
 慢性骨髄性白血病/再発または難治性 PH 陽性 ALL に対するダサチニブ薬剤動態の検討

学会発表

造血幹細胞移植後に発症したアルテルナリア症の一例	日本造血細胞移植学会
FIP1L1-PDGFR α キメラ遺伝子陽性好酸球増多症の 1 例	近畿血液学会地方会
ブスルファンの血中濃度測定の有効性	日本血液学会
当院における RP 療法について—高齢者移植非適応 MM 患者に対して RP 療法の有効性と安全性を検討する—	日本血液学会
CML 患者の QOL 把握のための他施設共同観察研究	日本血液学会
遺伝子異常と骨髄線維化を伴った急性骨髄性白血病に対して臍帯血移植を行った症例	日本造血細胞移植学会
急性白血病寛解例に対して HLA 不一致造血幹細胞移植後繰り返す肺炎にグロブリン予防投与が有効であった 1 症例	日本造血細胞移植学会
A case of ATLL in which re-administration of the mogamulizumab was effective	日本血液学会
A 5-day regimen of azacitidine of untreated patients with low-risk MDS	日本血液学会

in-use experience of Azacitidine to MDS in this hospital	日本血液学会
エルトロンボパグ投与中にリツキシマブ投与を行った慢性特発性血小板減少性紫斑病の 1 例	近畿血液学会地方会
A case with acquired hemophilia A induce by clopidogrel	日本血液学会
当院で経験した TAFRO 症候群の例	奈良県リンパ腫 談話会
血液疾患とケモカイン	奈良県リンパ腫 談話会
Inotuzomab Ozogamicin が有効であった Ponatinib 投与中に再発を認めた Ph 陽性 ALL の 1 症例	近畿血液学会地方会
Eltrombopag 投与中に骨髓異形成症候群に進展したと考えられる再生不良性貧血の 1 例	近畿血液学会地方会
Retrospective analyses of 1,414 symptomatic multipule myeloma cases:update from Kansai Myeloma Forum	日本血液学会
TET2 mutation is a poor prognotistic factor for survival in BNCR-ABL-negative MPN patients	日本血液学会

診療科長抱負

血液内科領域の治療の進歩/発展は早く、治療成績が劇的に向上している。昔では助けられない患者も今では、内服治療で長期生存ができるような血液疾患もたくさんあり、我々血液内科医は、治療の進歩を体験でき、患者と向き合う中で日々満足のいく治療ができるようになってきている。患者もいろいろな治療選択肢があり治療に満足してくれるようになってきている。日本全国の血液内科医が血液疾患の治療向上を目指して日々努力しているのでエビデンスが高い質の良い医療を提供できている。しかし、奈良県では血液内科医は少なく、不足している現状もある。今後 AI などの普及により、血液内科医の仕事の負担はかなり軽減されると思われる。また、高齢者の血液疾患も増加傾向であり、十分な治療ができない患者もいるのも現実である。当科では緩和も含めて適切な選択を患者にさせていただくことを考えている。血液内科医は診療から治療さらに緩和医療まで全てに関わり、決定することができる。血液内科医は日々充実した診療を過ごせるのでぜひ一緒に仕事ができるように希望しています。